

ご挨拶



沖縄及び北方対策担当大臣

尾身 幸次

本年は、沖縄の本土復帰三十周年という、沖縄が新しい時代に向けて飛躍する節目の時期を迎えました。私は、この節目の年を沖縄担当大臣として迎えることを大変光栄に思うとともに、その責任の重さに改めて身の引き締まる思いがしております。

沖縄のこの三十年間を振り返ると、政府は、三次にわたる沖縄振興開発計画に基づき、本土との格差是正を図るため、インフラの整備を中心に約六・八兆円の公共投資を行い、かなりの成果をあげてきました。しかし、全国の約七割の水準にある一人当たりの県民所得や高い失業率など、沖縄はまだまだ改善しなければならぬ多くの課題を抱えています。

また、沖縄には、米軍基地の問題もあります。在日米軍の存在が日本の平和と安全のみならずアジア・太平洋地域の平和と安定に貢献し

ている一方で、沖縄県民の皆さまには大きな負担をおかけしています。昨年、小泉総理が沖縄全戦没者追悼式に出席し、「沖縄の問題は日本全体の問題であることを私は認識している」と言われましたが、まさにそのとおりだと思います。私自身はもちろん国民全体がそういう意識をしっかりと持ちながら、この問題に取り組んでいかなければなりません。

この問題については、S A C O

本土復帰三十周年と これからの沖縄振興 について

は重点の置き方を変え、民間主導による自立型経済の構築という視点から沖縄の将来の大きな絵を描いていきたいと思っています。全会一致で去る三月二十九日に成立し、四月一日から施行された沖縄振興特別措置法もこのような考え方に基づくもので、基幹産業たる観光産業、新しいリーディング産業に育ちつつある情報通信産業、製造業、農林水産業などの一層の振興を図るとともに、「情報通信産

太平洋地域の知的クラスターとして発展させ、その経済的自立を実現することをねらいとしています。

優秀な人材を世界中から集めるため、この大学院大学では、研究活動や会議などはすべて英語で行います。さらに学長は外国人とし、海外の一流の大学、研究機関と連携を図り、若手研究者も能力を発揮できるような環境を整え、学会も頻繁に開催するなど、日本には他に例のないフレキシブルかつインターナショナルな大学院大学にするつもりです。

私は、このような世界最高水準の大学院大学が二十一世紀の沖縄振興の柱となり、沖縄の社会経済を大きく変えていくことになると考えております。

沖縄は今新しい十力年計画の門出を迎えています。この十年を沖縄にとって真に有意義な十年とするには、沖縄の二十年、さらには三十年先を見据えた長期的展望の上に、今我々は何をなすべきかを自らに問う必要があるでしょう。

沖縄の抱える課題はまだ大きく、関係者のみなさんが沖縄の次の三十年の礎を自分たちが築くのだとの気概を持って全力をあげて取り組んで行くことを、大臣として心から期待しております。政府も全力で県民のみなさまともども頑張っております。

最終報告の着実な実施を通じて、基地の整理・統合・縮小を進めていくなど、県民のみなさんの負担軽減に向けて今後とも全力で取り組んでいきます。普天間飛行場代替施設については、昨年末の第8回代替施設協議会で決定された「代替施設基本計画主要事項の取扱い方針」を踏まえ、沖縄県及び地元地方公共団体と引き続き協議を行い、代替施設基本計画の策定に向けて取り組んでまいります。

経済面の課題については、今後

業特別地区」「金融業務特別地区」など画期的な制度を設け、関連産業の集積や人材の育成、雇用の増加を進めてまいります。

この法律により、私がかねてより提唱してきた「大学院大学」の整備を進めていくことも確認されました。これは、沖縄担当と同時に科学技術政策担当を兼ねる私ならではの構想であります。

この大学院大学は世界中から人材を沖縄に集め、この人たを育てることによって沖縄をアジア・